

平成29年度 名古屋大学総長顕彰授与式が行われました

平成30年3月26日（月）豊田講堂第一会議室にて



総長顕彰委員会

木俣委員長（学生支援担当・副総長）

佐久間委員（文学部長）、植田委員（教育学部長）、村瀬委員（情報学部長）、杉山委員（理学部長）、川北委員（農学部長）、佐宗委員（ナショナルコンポジットセンター長）、岡本委員（生協理事長）

本顕彰に係る募集は、各部局への募集要項等送付、ポスター、ホームページ及び電子掲示板等を通じて、平成29年12月4日（月）～平成30年1月25日（木）の期間に行われ、その結果、「学修への取り組み」部門に7件の学部推薦が、「正課外活動への取り組み」部門に自薦・他薦を合わせて9件の応募があった。

これら合計16件の推薦・応募について、総長顕彰委員会による厳正な審査及び合議を経て、最終的に8名（団体代表を含む）の学生を平成29年度総長顕彰として表彰することを決定した。

学修への取り組み			部門	受賞者
	教育学部	人間発達科学科	4年	福井 ゆたか
	法学部	法律・政治学科	4年	左高 慎也
	経済学部	経営学科	4年	瀬住 優太
	理学部	物理学科	4年	吉田 貴一
	工学部	物理工学科	4年	VOLETI Sreekar
	農学部	生物環境科学科	4年	細井 朝子

正課外活動への取り組み			部門	受賞者
	フォーミュラチーム FEM			永田 裕宣
	名古屋大学 E.S.S.			今井 幸司

学修への取り組み 部門 受賞者 受賞者のことば・講評

福井 ゆたか 教育学部 人間発達科学科 4年

多様性と心の健康

社会的マイノリティと呼ばれる人々は、時に抑圧や搾取の対象となり、それが個人の心の健康に悪影響を与えます。私はこの問題に関心を持ち、ジェンダー、発達障害、外国人に関する学習やボランティア活動を行ってきました。卒業研究では、国外に視野を広げ、発展途上国のネパールで精神障害をもつ女性にインタビュー調査を行いました。その結果、女性の地位向上のためには、心理的問題への支援・予防・研究が不可欠であることを知りました。今後、日本の心理職がアジア途上国の精神保健の改善に貢献できる可能性は大きいと考えます。私は臨床心理学の研究者及び実践者として、社会的マイノリティの目線に立てる専門家になり、世界中で活躍することを志しています。大学院進学後も、国内だけでなく、途上国で虐げられる人々の心理的問題に継続して取り組み、多種多様なすべての人々の心の健康が保たれる、正当な社会の構築のために力を尽くしたいです。

講評：発展途上国のメンタルヘルス支援に携わりたいという大きな目標を持ち、世界で通用する英語力や研究的思考を身に付ける努力を意欲的かつ着実に続け、He For She キャンペーンでは本学の学生代表として発表するなどの活躍もあった。活動領域として海外を志向して実際に現地に赴き、NGO で培った人脈を生かして研究を行ったことは独自の活動として評価でき、他の学生に大いに刺激を与える。大学院進学後も研究を進展させることを期待する。

左 高 慎 也 法学部 法律・政治学科 4年

政治学研究者になることを目指して

私は大学1年生のときに受講した講義をきっかけに政治学に興味を持ち、研究者になりたいと考えようになりました。この目標を達成するため、次の2点に取り組みました。

1つ目は大学院進学希望者を対象として法学部に設置されている「エキップMIRAI」に参加したことです。このプログラムの一環として大学院演習に参加することで、学術的な議論の雰囲気や、自ら発言することの重要性を感じました。

2つ目は、法学部では必須でない卒業論文を執筆したことです。私が重視したのは、我が国では十分に紹介されていない、英語圏における最新の議論を扱ったことです。単なる海外の議論の輸入とならないように、それらを独自の観点から批判的に検討することを心掛けました。その結果として法学部での卒業論文最優秀賞をいただくことが出来ました。

私は4月から大学院に進学します。今後は「政治学とジェンダー」をテーマに、研究者として活躍することを目指していきます。

講評：入学後の早い時期から政治学の研究者になることを目標に掲げ、その学修態度は単に熱心であるだけでなく、自ら目標や課題を設定し、研究テーマに果敢に取り組んでおり、自律的で知的チャレンジ精神に溢れている。また、研究者養成のエキップMIRAIの一期生として他の学生と活発に交流し、合同ゼミなどで積極的なリーダーシップを発揮するなどの存在感を示している。将来、名古屋大学出身の研究者として、活躍が大いに期待される。

瀬 住 優 太 経済学部 経営学科 4年

本分を全うすること

私は、入学式で自らが宣誓した「本分を全うすること」を柱に4年間を過ごして参りました。“学生の本分”とは、一様ではないと考えていますが、私の場合は学業に力を入れて取り組むことでその言葉を体現しようと努めてきました。その中で、海外視察研修旅行と卒業論文研究にはとりわけ注力いたしました。

まず、海外視察研修旅行は10日間タイ・シンガポールに滞在し、現地大学でのプレゼンや日系企業の現地拠点を訪問するものでした。この研修旅行では、現地での活動に加えて帰国後にも現地での貴重な経験をプレゼンや成果報告書を通して同級生および後輩に伝えることにも力を入れました。

次に、卒業論文研究では、「電力自由化の有効性分析」というテーマのもと、講義等で学んだことを最大限活用し、公開されている情報の本質から気づきを得るために統計的分析を行いました。

4月からは社会に進出し、大学で学んだことを活かせる社会人として活躍していきます。

講評：旺盛な知識欲と社会に対する広範な知的関心にに基づき、真摯に勉学に励むとともに、ゼミや海外視察研修では積極的にリーダーとしての役割を担い、実施や運営に大きく貢献した。卒業論文研究では電力自由化の有効性について丁寧にデータ分析を行い、グローバル・スタンダードの潮流に流されることなく、電力の自由化・規制緩和の有効性を検証するその姿勢は、評価に値する。卒業後は、社会人としてさらに活躍することを期待する。

吉田 貴一 理学部 物理学科 4年

継続を活かして

私は、4年間の学生生活において物事を継続させることの大切さを学びました。毎日の生活の中で継続して勉強を行い、また、器械体操を幼稚園の時からやっていたので大学でも器械体操部に入り勉強と両立をしてきました。そのため七大戦、名阪戦では団体に優勝することができました。ここで得た力は研究などの様々な場面で活かされていると感じています。

現在私は宇宙論研究室で、大規模構造の密度ゆらぎに関する研究をしています。先行研究のない0からの取り組みなので、試行錯誤をしながら頑張っています。

4月からは大学院へ進学します。大学とは環境が大きく変わるとは思いますが、学友と議論を交わして理解を深め、大学生活で得た幅広い知識を駆使して少しでも宇宙の解明に、そして社会に貢献できる人間になりたいと考えています。

講評：タイムマネジメント能力に優れ、日々の学業を疎かにすることなく授業内容を確実に理解し、広範な好奇心に従い、広く学問全般について極めて高いレベルで知識を修得し、優秀な成績を修めた。学修を喜びにして、高いレベルで徹底して追求する態度は、他の学生の模範となる。また、体操部の活動にも熱心に取り組み、名阪戦等の大学対抗戦で活躍するとともに、代表者を務め、その人望も厚い。大学院進学後も粘り強い姿勢で研究することを期待する。

VOLETI Sreekar 工学部 物理工学科 4年

My Journey in Nagoya

My time in Nagoya University has taught me numerous lessons. I learned the importance of teamwork, most importantly the way in which the collective always achieves more than the individual. Japan's unparalleled efficiency, both in its population and service industry, imbibed in me a solid work ethic, highlighted by a strong sense of punctuality, humility and discipline. I learned to respect the dignity of labour and the importance of tenaciously carrying out tasks both in daily and academic life. My future plans include becoming a full time researcher, as well as a science communicator to encourage more young people from my country to take up fundamental science research as a career. My interests are in theoretical physics, specifically in condensed matter physics. I am interested in exploring the origins of order in nature, and understanding collective phenomena, which dominate the world around us.

講評：量子力学、統計力学、固体物理学などを特に深く理解し、単位修得に苦勞する学生が多いG30の物理系プログラムにおいて、極めて優秀な成績を修めた。難解な理論の文献を意欲的に読み込み、分からないことや読むべき教科書などに関して指導教員に積極的に相談し、高度な内容を理解する学修姿勢は、他の学生の範となる。引き続き、高度な学修に取り組むと共に、希望する世界トップクラスの大学へ進学し、研究を続けることを期待する。

細井 朝子 農学部 生物環境科学科 4年

好奇心を大切に、学び続ける

何か華やかな成果を挙げたわけではありませんが、こつこつと学習を重ねてきました。学習する際は、重要だと感じた点や面白いと感じた点をそのつど徹底的にメモし、いつでも見直せるようにしていました。そのメモは今でも私の財産です。また、知りたいという気持ちを大切に多様な分野の学習を行いました。例えば卒業研究では「台場クヌギ」という特殊なクヌギについて調査しましたが、自然科学的な手法だけではなく、明治時代の文献まで遡って歴史を調べるなど文系的な手法にも挑戦しました。現在は卒業研究の影響もあって、地域の人々の暮らしと森林の保護との両立に関心があります。

社会に出てみたいという気持ちが強く、4月からは民間企業に就職します。大学で学んできたのとは違う視点で山村を捉えてみたいと思います。社会での経験を活かした社会人大学院生という進路にも魅力を感じています。

講評：卒業要件を大きく超える授業科目を受講し、いずれも優秀な成績を修めている。実験や野外実習においても、目的を正しく捉え、班を主導し主体的に学修に取り組むなど、他の学生の良い刺激となっている。専門科目以外にも英語や経済関連科目を積極的に受講して取得が難しい資格を取るなど、その姿勢は大変力強いものであり、「論理的思考力」「課題解決能力」「実行力」を備えたチャレンジ精神に富む人材である。社会人となって、さらに大きく成長することが期待される。

正課外活動への取り組み 部門 受賞者 受賞者のことば・講評

フォーミュラチーム FEM

EV への挑戦

私たち、名古屋大学フォーミュラチーム FEM は小型のフォーミュラカーを1年で1台設計・製作し、自動車技術会が主催する全日本学生フォーミュラ大会に参戦しております。大会にはアジアを中心とする海外チームを含む約100チームが参戦しており、弊チームは過去14回参戦し、8回の入賞、2014年にはICV(ガソリンエンジン車)クラス優勝・総合優勝しています。

学生フォーミュラ大会は世界各国で開催されていますが、中でもレベルの高いドイツ大会ではトルク分配制御による優れた加速・旋回性能を利用したEV(電気自動車)が速さを発揮し、上位を占めるようになりました。そこで世界で戦える速いマシンを作りたいという思いから、EVクラスへの挑戦を決定、技術・運営面で多くの課題を克服し、EV参戦初年度にしてEVクラス優勝・総合4位入賞を果たしました。今年度は、昨年度課題の車両重量を軽くしたマシンで日本大会初のEV総合優勝を目指して尽力してまいります。

講評：仮想企業として、1年に1台の車両を設計・製作し、全日本学生フォーミュラ大会に出場している。この大会では、車両の性能、設計意図や車両製作費用・他社への製造委託などの提出書類、その場でのプレゼンテーション能力も審査され、優勝を競っている。2014年には総合優勝し、発足14年目の昨年の大会では、EVクラスでは優勝を果たし、総合で4位と、本学の名誉を高めた。本顕彰に値する成果であり、今後は、欧州の強豪チームと同等レベルになり、目標とする海外大会への出場を果たすことが期待される。

名古屋大学 E.S.S.

海外大会への飛躍を目指して

私達、英会話サークル E.S.S.は英語ディベートを活動のひとつとして行っています。この競技では、参加者の信条に関わらず無作為に肯否定と論題が決定され、論題発表後 15 分の準備で 7 分間のスピーチを交互に行い、その説得性を基に審判が勝敗を決めます。

外国語である英語を流暢に扱い、政治・司法・フェミニズムなど多様な論題を扱うことに難しさを感じることもあります。しかし、世界大会チャンピオンのスピーチを分析したり、過去の大会の論題の戦略を検討したり、工夫を重ねて練習してきました。こうした努力の甲斐もあり、2017 年 11 月に韓国大田広域市の Solbridge International School of Business で開催された北東アジア大会 (Solbridge Northeast Asian Open2017)にて、私達のチームが EFL(English as Foreign Language speaker: 外国語としての英語話者)部門決勝へ進出し、準優勝しました。英語ディベートの海外大会における準優勝は本学 E.S.S.として初の快挙です。

この経験を活かし更なる飛躍を目指す為、今後も積極的に海外大会へ出場していきたいです。

講評：多種多様な社会問題の是非を取り扱う即興型英語ディベートに取り組み、部員数が少ないため、他大学と練習するなどして着実に力を培ってきた。今年度韓国で開催された北東アジア大会では、今井・金原のチームが EFL（外国語としての英語話者部門）で準優勝を飾り、英語ディベートの海外大会での準優勝は本学初のことであり、本学の名誉を高めた。今後は、さらに研鑽に励み、海外大会、国内大会に出場し、いっそうの活躍が期待される。